

令和7年度 学校評価報告書 (中間報告・実施結果)

| 視点                | 4年間の目標<br>(令和7年度策定)  | 1年間の目標  | 取組の内容  |   | 校内評価   |   | 学校関係者評価<br>(3月11日実施)  | 総合評価 (3月31日実施)  |   |
|-------------------|--|---|--|---|--|---|---|---|---|
|                   |  |   | 具体的な方策   | 評価の観点   | 達成状況   | 課題・改善方策等  |   | 成果と課題   | 改善方策等   |
| 1<br>教育課程<br>学習指導 | <p>①個別最適な学習や多様な進路選択に対応できるよう、教育課程を編成する。</p> <p>②生徒が自ら学ぶ意義を客観的に捉える力を高め、「探究力」を育成する。</p> <p>③生徒一人ひとりが意欲的に取り組める行事・特別活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p> | <p>①生徒のキャリア実現を支援する教育課程を整備する。</p> <p>②生徒自身が単年で身につける資質、能力を意識する授業を展開する。</p> <p>③生徒一人ひとりが意欲的に参加する行事・特別活動等を実施し、主体的に行動する力とともに協働する力の伸長を図る。</p>   | <p>①教科横断的な授業や長期休業中の講習の実施を呼びかけ、生徒の主体的な学びを支援する。</p> <p>②教職員向けの授業研修会を年3回以上計画的に実施する。</p> <p>③行事・特別活動等の実施の際には、生徒会本部役員や委員会・部活動等の生徒と意見交換を重ね、生徒自らが主体的かつ協働的に行動する機会を積極的に設ける。</p>       | <p>①長期休業中の講習の受講率が向上したか。</p> <p>②「生徒による授業評価」の分析を基にした、研究授業の結果が向上したか。</p> <p>③行事前に生徒会本部役員や委員会・部活動等の生徒と取組について、事前打合せを行い、生徒の意見をどの程度反映させることができたか。</p> <p>③行事後にアンケートを実施し、生徒の満足度を調査する。8割以上の満足度が達成できたか。</p> | <p>①長期休業中の講習を受講した生徒が208人と昨年度より56人増加し、生徒の主体的な学びを支援した。</p> <p>②研究授業の担当だけでなく、教科全体で研究授業の質を高める協議を実施した。</p> <p>③体育祭・文化祭は生徒の満足度も高く(両方とも9割以上を達成)、充実した行事が実施できた。また、各行事の運営には、委員会や部活動の生徒は主体的に参加した。</p> | <p>①開講講座数は19講座と昨年度より4講座少なくなった。各教科に積極的な講座の開講を依頼する。</p> <p>②研究授業だけでなく、普段の授業から意見交換や授業見学を積極的に行う雰囲気を作り出す必要がある。</p> <p>③より多くの生徒が主体的に参加できるように、生徒と意見交換を重ねるとともに、様々な場面で活躍した生徒を積極的に紹介するなど、自己肯定感を高める取り組みを進めていきたい。</p> | <p>①キャリア実現に無得た支援では、達成状況から教員の支援が奏功していると考えられる。</p> <p>①長期休業中の講座等は動機や目的別に設定し、きめ細やかな指導に結び付けてほしい。</p> <p>③学校行事については、動機づけが重要なので引き続き取り組んでいただきたい。</p>                       | <p>①高大連携も実施し、多様な講習を実施することができた。次年度の選択科目で希望者が少なく開講できなかった科目がある。</p> <p>②職員全体で生徒の主体的な学びを支援する授業作りを考えた。今年度の取り組みを継続する工夫が必要である。</p> <p>③生徒が意欲的に参加する行事・特別活動等の実施ができた。一部の生徒・教員だけでなく、学校全体で協力していく仕組みづくりが必要。</p>                            | <p>①教科全体で魅力的な授業を作り上げ、生徒に情報を発信する。</p> <p>②職員個人でなく教科全体で授業の引継ぎを考えていく。</p> <p>③生徒の意見だけでなく、教員の意見も確認し、双方が意欲的に取り組める仕組みづくりに努める。</p>   |
| 2<br>生徒指導・支援      | <p>①行事・部活動等を通して、「協働」の精神の涵養を図り、自己及び他者を尊重する態度を養う。</p> <p>②地域とかかわり、地域から愛され、信頼される生徒を育成する。</p> <p>③個に応じた教育相談体制の充実を図る。</p>                         | <p>①持続可能な行事・部活動の運営体制を整備し、生徒の主体的な活動を通し、自己及び他者と協働して取り組む姿勢を養う。</p> <p>②生徒の自己肯定感を高めるとともに、基本的な社会規範を尊重する態度の定着を目指す。組織的かつ継続的に指導を行う。</p> <p>③「かながわ子どもサポートドック」及び相談箱の利用などをとおして、効果的に相談ができるよう取り組む。</p> | <p>①生徒・教員と丁寧なコミュニケーションを取り、行事や部活動等に積極的に参加できる仕組みを構築する。</p> <p>②掲示物やHRなどで、貴重品の管理等日常生活の注意点を周知するとともに、髪型や服装なども定期的な指導を継続する。</p> <p>③学年ごとに生徒の情報交換を密に行い生徒の実態を把握することにより、適切な対応に努める。</p> | <p>①部活動加入率や、部活動の参加継続率の向上を図ることができたか。また、地域と連携した行事を実施できたか。</p> <p>②基本的な生活習慣の定着を図ることができたか。自立した高校生としての自覚を促し、生活面での指導対象者の減少につながったか。</p> <p>③生徒からの相談に十分に対応し、生徒の困り感の具体的な改善につながったか。</p>                     | <p>①部活動加入率は66.8%と昨年度との差は無かった。部活動継続率も90%を超えており、好調であった。また、地域や市のイベント等にも積極的に参加できた。</p> <p>②特定事案について、前年度に比べて増加傾向にある。</p> <p>③前年度に比べて、SC及びSSWにつなげた生徒の件数が、高止まりや増加傾向にある。</p>                       | <p>①教員と生徒が積極的にコミュニケーションを図り、共通認識をもって部活動に取り組める体制づくりを心がけたい。</p> <p>②要因として生徒の不注意によるケースであることから、丁寧な声掛け等と環境整備により、事案発生件数を減少させる。</p> <p>③SC及びSSWと連携しながら、コア会議等で丁寧に対応する。</p>   | <p>①②地域連携をスローガンに日頃から取り組んでいるのは数値からも読み取れる。特に、すこやか祭りとのタイアップは印象的である。地域のフェスティバル等に積極的に参加しているのは評価できる。</p> <p>③コロナ禍を経て、自分の意思を伝えることが難しい生徒が増えている。消極的な生徒にどうアプローチするかが重要である。</p> | <p>①自己及び他者と協力して取り組む態度を養った。持続可能な運営体制を目指し、地域も含めて協力体制を模索していく。</p> <p>②日ごろの指導により、全校的に落ち着いた学校生活である。しかし、友人関係等のトラブル事案が発生したことから、引き続きコミュニケーション力を高める支援をする必要がある。</p> <p>③困難を抱える生徒の把握に努めることができた。担任及び学年が生徒情報を学校全体で共有し、組織的な取組を進める必要がある。</p> | <p>①充実した取り組みができるように教員と生徒が積極的にコミュニケーションを図り、共通認識をもって部活動に取り組める体制づくりに努める。</p> <p>②コミュニケーションンスキル教室等学年学校行事をとおして、コミュニケーション能力を高める取組を進める。</p> <p>③教育相談体制が円滑に実施できるよう学年・担任等と連携を図る。</p> |
| 3<br>進路指導・支援      | <p>①自己と社会を見据え、社会に求められる力を育むためのキャリア教育の確立を図る。</p> <p>②生徒の第一志望実現</p>   | <p>①地域の人材を含む外部の教育力を活用した授業等を充実させ、生徒が自己と社会を深く理解し、主体的に地域課題や自己の課題を探究</p>  | <p>①3年間を見通した総合的な探究の時間の計画策定を基に、より深い地域との関係性を構築した授業展開と、外部講師の適正かつ豊富な利用機会を設</p>   | <p>①「総合的な探究の時間」を計画に沿って実施し、外部の教育力の活用を推進できたか。</p> <p>①長期休業中のキャリア育成講座数を昨年度より多</p>  | <p>①「総合的な探究の時間」を計画に沿って実施した。1年次は地域の企業等と連携し、課題や解決策について探究した。</p>  | <p>①課題を発見し観察するだけでなく、現実的で協働的な解決に向けて具体的なある取り組みを考えさせるとともに、自己の</p>  | <p>①中学校から継承される「キャリアパスポート」の活用状況が気になる。</p> <p>①進路指導においては、</p>   | <p>①②地域の人材を中心に外部の教育力を活用し、特に「総合的な探究の時間」や長期休業中のキャリア育成</p>   | <p>①②引き続き、外部の教育力を活用していきながら、取組のサイクルを確立させ、特に振り返りの時間を重</p>   |

| 視点             | 4年間の目標<br>(令和7年度策定)   | 1年間の目標  | 取組の内容   |  | 校内評価  |  | 学校関係者評価<br>(3月11日実施)  | 総合評価(3月31日実施)  |  |
|----------------|---|---|---|--|---|--|---|--|--|
|                |   |   | 具体的な方策  | 評価の観点  | 達成状況  | 課題・改善方策等   |   | 成果と課題  | 改善方策等  |
|                | に向けた、進路支援の確立を図る。  | しようとする態度を育成する。<br>②卒業後の自己の生き方、在り方を具体的にイメージした進路実現を果たせるよう、教員全体で共通性のあるキャリア支援を実施できるよう支援する。                            | ける。<br>②外部講師等を積極的に活用し、生徒・教員に向けた情報発信の機会を設ける。   | く開講できたか。<br>②外部講師等を活用した情報発信の機会を設け、充実した内容の講座を展開できたか。<br>①②総合的な探究の時間の生徒アンケート結果を全学年で上昇させることができたか。                           | ②長期休業中のキャリア育成講座は8講座(夏季6冬季2)であり、昨年度より4講座増やすことができた。<br>②分野別ガイダンス(2年次)や大学別ガイダンス(3年次)を実施した。また3年次には年内入試に向けたガイダンスや実力テストに振り返り講座を実施し、進路実現に向けた情報発信を行った。<br>①②アンケート結果を全学年で概ね上昇させることができた。  | 考えをより正確に伝えられるような表現力の向上も心がけた。<br>①講座を開講したものの参加者が十分に集まらないものもあった。生徒に対して積極的な参加を呼び掛けるとともに、長期休業中ならではの意義のある講座設定をしたい。<br>②生徒向けのみならず教員に向けた情報発信の機会を設け、教員全体で共通性のあるキャリア支援の実施に取り組みたい。         | 生徒の合格実勢などの動向を注視したい。<br>②キャリア育成型講座については積極的な参加を促したい。  | 講座において、生徒自身の生き方をイメージしたキャリア支援を実施した。特に3学年においては、進路実現に向けた支援体制の構築を目指し、外部講師等を積極的に活用し、情報発信の機会を充実させた。<br>一方で、主体的な探究態度については、生徒により個人差があり、必ずしもすべての生徒のキャリア形成には至らなかった。  | 視したい。<br>②授業や講座ごとの目標を提示し、生徒一人ひとりが主体的に取り組めるよう工夫する。また、教員全体で共通認識を持ち適切なキャリア支援の実施に向けて、キャリア支援グループが中心となり、最新の入試動向や傾向を共有できる仕組みづくりに取り組む。                                       |
| 4 地域等との協働      | ①地域との交流や活動を積極的に行い、生徒が主体的に活動する場を提供し、地域とかわる力の育成を図る。<br>②学校運営協議会等を活用し、地域に開かれた学校づくりに取り組む。             | ①より多くの生徒が地域との関わりを感じ、地域との関わり場面を増やす。関わりから得た経験と学びを振り返りができるように指導していく。<br>②協議会等から得た学校の課題や評価を全職員と共有し、よりよい学校運営を行う。       | ①ボランティアやST、部活動などグループの壁を越えて多くの生徒が地域交流の場面を実感できるように支援していく。それぞれの場面でフォーム等を使用し振り返りの時間を設ける。<br>②職員会議や各グループにおいて協議会情報の共有を積極的に行う。   | ①フォームやアンケートを通して生徒一人ひとりが関わりや学びを実感できたことを確認することができたか。<br>②各グループ業務を確認し協議会で得た情報との関わりを分析し達成度と課題をまとめることができたか。                   | ①地域のケアプラザの活動への参加やボランティア活動など新たな取り組みを実施することができたが、生徒自身の活動の振り返りについては、時間的な確保の関係で、十分取り組めないものがあつた。<br>②協議会でいただいた内容について関係部署との情報共有を行ったが全体での共有についてはこれからも課題としたい。   | ①LHR など時間の確保はいちばんの課題であり、全体で一斉にということは難しい。そのため、フォームの作成などをこまめに行い引き続き活動を進めていきたい。<br>②中間報告での協議の内容を多くの職員と共有していけるように進めていきたい。  | ①地域との連携を通じて多くの経験を積むことが、自己実現につながるのではないかと。生徒の目でさまざまなことに触れることが重要である。<br>①地域交流の実績はしっかりと実績を積んできていると考える。教職員側の辛労もあるのではと拝察する。 | ①地域と関わりのある活動について新しい取組もあつた。振り返りに関しては多くの学びを得ることができたが、十分に確保できなかったものもあつた。<br>②概ねできたが、今後も他の取り組み方や、共有の仕方について工夫が必要である。  | ①全ての活動において、今以上に活動の意図や目的を確認し、各個人が明確な目標を持って取り組み、最終的な振り返りを行うことが引き続き課題である。<br>②HPでの共有を含む職員全体で共有していけるような取組を継続していく。  |
| 5 学校管理<br>学校運営 | ①教育環境の変化に対応し、適切な設備・備品管理や環境整備等に取り組む。<br>②生徒・職員の防災意識の向上を推進し、地域に開かれた学校として連携を図る。<br>③職員の事故・不祥事防止に努める。 | ①教育環境及びICT機器の管理や整備等について、安全面からも工夫を図る。<br>②教育活動全体をとおして防災教育を実施し、地域や教科等と連携を図る。<br>③教育への信頼と生徒たちの安全・安心を守るために、職員の認識を深める。 | ①教職員の働き方改革の進に伴い、教育環境等の管理・整備に取り組む。<br>②地域や教科と連携した防災訓練や、ICT機器を活用して防災教育等を実施する。<br>③事故・不祥事防止研修を、適切なテーマで実施する。教職員の人權研修を計画・実施する。 | ①ICT機器等の管理や設備等の整備に取り組めたか。SDGsの観点から教育環境等の適切な整備を推進できたか。<br>②地域や教科と協働して防災訓練や防災教育に取り組むことができたか。<br>③事故・不祥事防止研修を年3回計画し、実施できたか。 | ①ICT 機器等設備更新、職員室等の整理により、教育環境の整備をすることができた。<br>②防災避難訓練を5月20日と12月9日に実施した。今年度も第2回は近隣の保育園と連携して同日実施と同日になった。<br>③事故・不祥事防止研修会について、3回(6月19日、11月20日、1月22日)計画立案し、実施した。また、8月25日に鶴見支援学校分教室の教員による研修を実施し、特性を持つ生徒への支援方法について、理解を深めることができた。 | ①施設等の老朽化が課題だったが、事務の尽力により改善された面にある。次年度はオフィス改善もあり、学校全体で環境整備に取り組むたい。<br>②DIGでの地域連携が不十分だった。次年度以降も地域と連携できるように努めたい。<br>③教職員のコンプライアンス意識の向上と組織力の向上を図るために、継続的に実施している。今後も適切な研修計画を検討していきたい。 | ②地域防災の観点から、今後とも連携して取り組むようにしてほしい。<br>③中学校等でも不祥事防止研修を実施している。不祥事の根絶に向けて、今後とも取り組むことが重要である。                                | ①ICT 機器等の適切な管理に加え、事務の迅速な対応により施設老朽化に対する環境改善を実現した。<br>②近隣保育園との同日避難訓練を継続し、地域の防災拠点としての機能を強化できた。<br>③年間3回の不祥事防止研修を計画通り実施し、組織全体の不祥事抑止に対する意識を高めることができた。研修を通じ、生徒の特性に応じた具体的な支援方法を学んだことは、インクルーシブ教育の推進において大きな成果である。 | ①一部改善されたものの、対応が必要な箇所が残る。次年度のオフィス改善工事に伴う一時的な業務環境の変化への対応が求められる。<br>②DIG(災害図上訓練)の実施見送りにより、地域住民や関係機関との連携が次年度への課題である。<br>③研修で得た知識を日常の指導や同僚間でのリスク管理を定着させ、風通しの良い組織にする必要がある。 |